

静岡大成高等学校第21回卒業証書授与式 学校長式辞

日ごとに、春の訪れを感じさせる季節となりました。本日、静岡大成高等学校、第21回卒業証書授与式を挙げていただけますことを、大変嬉しく思います。ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。陰になり日向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いがよみがえってきていることとお察しいたします。また、この3年間、本校の教育方針にご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

168名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。進学をして学問を究める人、専門知識を身につける人、就職して社会人として活躍する人、進む道は違いますが、必ず目標を持ってスタートラインに立ってください。

皆さんは、中学2年、3年と、新型コロナウイルス感染が猛威を振るい、さまざまな行事が中止や変更となり、辛い思いや寂しい思いをしてきたと思います。高校入学後の3年間は、世の中がコロナ禍前に戻っていく過程を体験してきました。不測の事態が起こった時、それを乗り越えて正常な状態に戻していくという社会の営みを、中学・高校時代に、自ら体験できたことは大変貴重なことだと私は思います。今後の人生にぜひ役立ててください。

さて皆さんに話をするのは今日が最後なので、私自身のことを少しお話したいと思っています。一つはいつものようにランニングの話です。43歳でランニングを始め、今年で22年になります。先週99回目の大会を走りました。次の静岡マラソンが100回目のレースとなります。私が走る理由は、走ることが好きだからではありません。走ることによって、自分の生き方に自信を持つことができるからです。ゴールまであきらめずに走り続けることで、考え方が前向きになり、それが私の人生を支えています。皆さんにも、心の支えとなる考え方があると思います。今なくても、これからそれを見つけることができます。それが自分の生き方の自信となって、人生を豊かにしてくれるでしょう。

もう一つは、今日の卒業式を迎え、思い出したことです。本校が静岡精華高校だった39年前の卒業式のことです。私が初めて自分のクラスの生徒を送り出した卒業式でした。初めて壇上に上り、ミスなく無事に終えたいと緊張して式に臨みました。生徒の名前も無事に読み上げ、あとは式歌斉唱を残すのみとなりました。生徒が仰げば尊しを歌い始めると、私は突然泣き出していました。涙を流す、のではなく、肩を震わせ声を出して泣いていました。でも、思い出を懐かしんだからでもなく、生徒との別れを悲しんだからでもありませんでした。初めての3年の担任で、うまくいくことよりも失敗することの方が多く、生徒の期待に応えられないこともありました。ようやく卒業生を送り出すことができ、それまで押さえ込んでいた気持ちが込み上げ、無意識に体が反応した

のかもしれません。生徒との日常のさまざまな体験が、私の体に刻み込まれ、私の財産となっていたのです。そして、それがベースとなって、今日まで教員生活を続けることができたのだと改めて思いました。

皆さんは、静岡大成高校での3年間で、思い出せないほど多くの体験をしてきたと思います。皆さんの体の中に刻み込まれたさまざまな体験は、皆さんにとってとても大きな財産となっているはずです。ぜひそれを大切にしてください。そして、その財産をベースとして、人生の新しいスタートを切って欲しいと思います。

最後になりましたが、改めてみなさんに「自律」、「対話」、「行動」を伝えます。自律とは大人になること、対話とは社会の一員となること、行動とは社会をより良くすることです。この言葉が活かされるのはこれからです。皆さんの力で、より良い社会を創り上げていってください。期待しています。

では、卒業生のみなさん、これからのますますのご活躍を祈願し、式辞といたします。

令和7年3月1日

静岡大成高等学校 校長 山田 隆司